

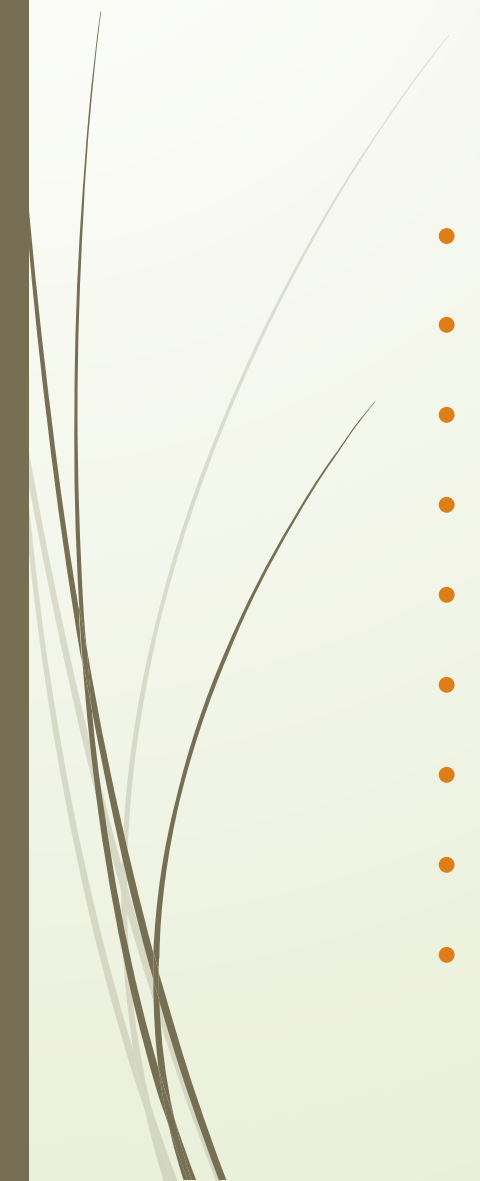
# 文化の知識が如何に外国語学習への動機付けに繋がるか：日米の大学生の意識調査

アンドレア・メイシー  
ニコ・バウティスタ

アドバイザー：齋藤-アボット佳子教授  
関根繁子教授



# 概要

- 研究の重要性
  - 研究質問
  - 研究背景
  - 研究方法
  - 研究結果
  - 結論
  - 研究における限界点と将来の研究課題
  - 参考文献
  - 謝辞
- 

# 研究質問


1. 日米の外国語の授業ではどのように文化を取り入れているのか。
2. 文化は日米の学生が外国語を学ぶためのモチベーションにどのように影響しているのか。

ABC

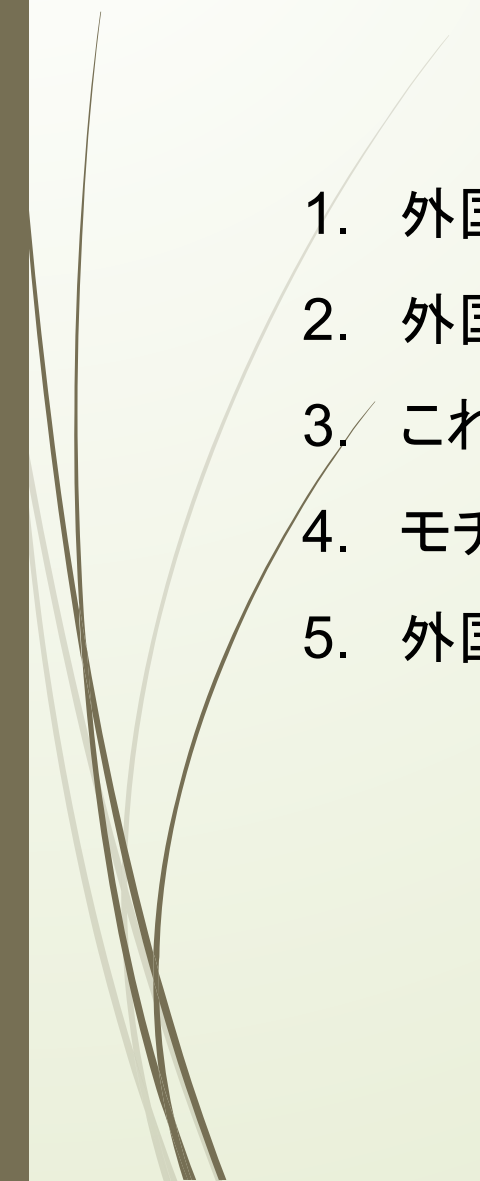
あいう

# 研究の重要性

- 私達は幼い時から日本のアニメ、漫画、音楽等に興味があり、それが日本語を学習するきっかけになった。
- 外国語の勉強をすることに対して文字や文法だけではなく文化も勉強すれば、動機も上がり自分の目的を遂げることに繋がる。
- 日米の外国語の授業では、どのように文化が学ばれ学生の動機付けになっているかを調査したいと思った。



# 研究背景

1. 外国語教育の推移(アメリカ)
  2. 外国語教育の推移(日本)
  3. これからの日本の英語教育の計画
  4. モチベーションの理論と外国語学習
  5. 外国語学習のモチベーションとしての文化
- 

# 外国語教育の推移: アメリカ(1)

## 文法翻訳:

- 文の構成や、単語の知識に焦点をあて、翻訳ができるかを重視

## コミュニケーション能力:

- ACTFLガイドライン (1986年)
- 実社会でコミュニケーションできること

## オーディオ・リンガル (ドリルと反復練習):

- フレーズを暗記して状況に置き換え反復練習をする

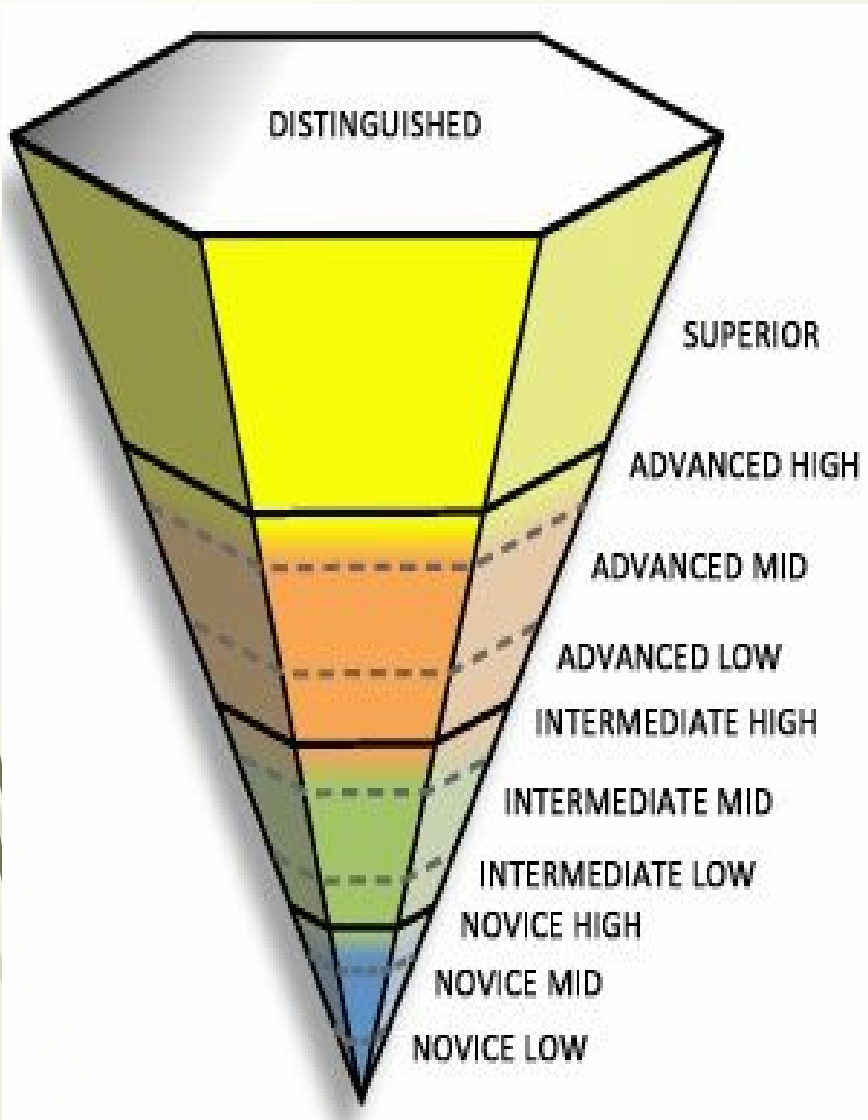
## ワールド・レディネス・ スタンダード:

- 文化を通して言語を教え、実社会で使える言語と世界で活躍できる人材を目指す (2015年)

# 外国語教育の推移: アメリカ(2)

## ACTFL 言語運用能力基準

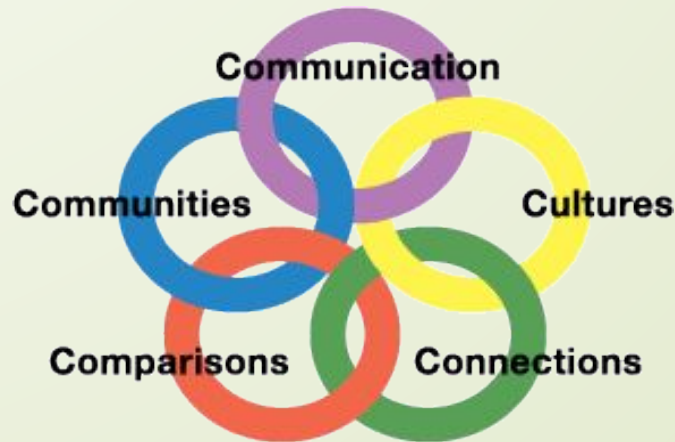
- 改正(1986年, 1999年, 2001年, 2012年)
- 話す、書く、読む、聞くの4技能にわけられている
- それぞれの文化に沿ってのコミュニケーションが重視される
- 初級、中級、上級、超級、卓越級にわかれている。



# 外国語教育の推移:アメリカ (3)

## 5C

- **コミュニケーション** 英語以外の言語でコミュニケーションする
- **文化** 学んでいる言語の文化の知識と理解を得る
- **繋がり** 他の分野とつながりと、情報を入手すること
- **比較** 学んでいる言語と文化を理解すること
- **コミュニティ** 国内外の多言語のコミュニティに参加する

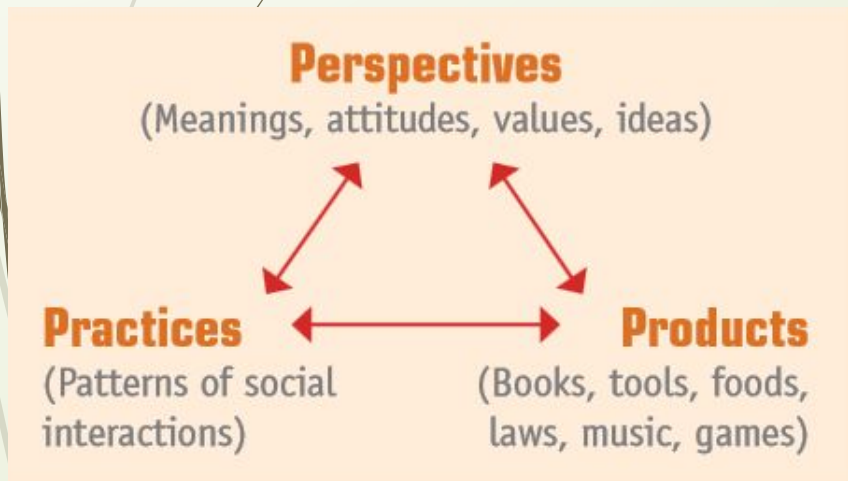




# 外国語教育の推移:アメリカ(4)

## 文化の3P

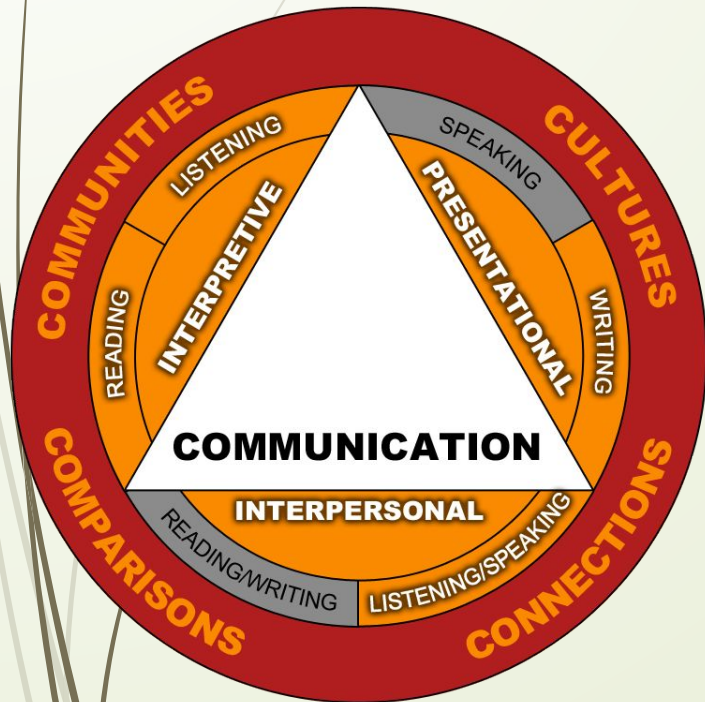
5Cによれば、文化はこれらのアスペクトによって教えられる



- プロダクト
  - 有形と無形
  - 文化の信念と価値をサポートする項目
- プラクティス
  - 「いつ、どこで行うべきか」
  - 社会にふさわしい行動や相互作用
- パースペクティブ
  - 世界、意味、価値観、態度、アイデアに対する文化の視点を表す

# 外国語教育の推移:アメリカ(5)

ACTFL: 二十一世紀における外国語学習に対する国家基準



## 「コミュニケーションの3モード」

- インターパーソナル (聞く、読む、見る)
  - 直接的な口頭のコミュニケーション
- インタープリティブ (話す、書く、聞く、読む)
  - コミュニケーション:口頭か文章
  - クリエーターなしの映像や記録によって機能する
- プレゼンテーション (話す、書く、見せる)
  - 聞き手のための口頭か文章によるコミュニケーション

# 外国語教育の推移:アメリカ(6)

## ワールド・レディネス・スタンダード

- それぞれの状況に於いてその文化にそくしてコミュニケーションができる能力
- グローバルに対応できる能力



# 外国語教育の推移:アメリカ(7)

## コアプラクティス

### 勉強している外国語で学ぶ:

- 学生と教師は話す、聞く、読む、書く、見る、作るなど教室で勉強している外国語を9割使う

### コミュニケーション活動を通しての授業:

- 教師は ペア、小グループ、授業の内容のために対人コミュニケーションの活動を計画する

### コンセプトとして文法を教え、文脈の中で使う:

- 学生が文法の形より意味と使い方に焦点を当てる。コンセプトとして文法を教え、文脈の中で使う

### 生教材を使う:

- 生教材を使った授業

### バックワードデザインを使って授業案を作成する:

- 教師は望ましい結果を見極め、その目的に沿った授業内容を計画する

### 適切なフィードバックの与えかた:

- 学習者がより良く学ぶためのフィードバックの仕方

# 外国語教育の推移：日本

- **小学校(Grade 5)**
  - 週に一回の英語の授業
- **中学校と高校**
  - 週に4回英語の授業
- **問題**
  - 暗記を強調する
  - 十分な英語の能力のない教師
  - 生徒達が6年間英語の授業を強いられるためモチベーションが低下
  - 教科書から英語を教えている
  - 入学試験を合格するために基本のリーディングとライティングの技能が必要

(Løfsgaard, 2015)

(Clark, 2009)

# これからの日本の英語教育の計画

## 2020年リフォーム

- **小学校三年生:**
  - アクティビティを通して英語を教える
  - 担任の教師は週に一回あるいは二回英語の授業を教える
- **小学校五年生と六年生:**
  - 資格のある担任の教師は週に三回英語の授業を教える
- **中学生:**
  - 英語の授業を**英語で教える**
  - 身近な話題を理解するために、簡単な情報や考え方を共有することを目標とする

(ICEF Monitor, 2015)

(Masaaki, 2013)

# これからの日本の英語教育の計画(続き)

## 2020年リフォーム

- **大学入試:**
  - 年に一度のチャンスしかなかったセンター入試から、年に数回の定期試験の成績の導入
  - 色々な試験の種類が増えることで、特に考える力と個人の長所を示すことができる
  - 大学入試においてTOEFLのスコアが必須になる
- **課題:**

グローバル社会で必要な柔軟な考え方に対応できる能力をどのように授業にとりいれるか



# モチベーションの理論と外国語学習

- **モチベーションとは**

- モチベーションとは人間性への原動力としてある行動へと駆り立て、目標へ向かわせるような内的過程。
- 行動の原因となる生活体内部の動因と、その目標となる外部の誘因がもととなるもので外国語を学ぶにはとても大事
- 継続的かつ効率的に外国語を学ぶために重要

(Liu,2013)



モチベーションの種類

- **道具的動機づけ (Instrumental)**
- **総合的動機づけ (Integrated)**
- **内因的 (Intrinsic)**
- **外因的 (Extrinsic)**

(Mahadi, 2012)



# モチベーションの理論と外国語学習(続き)

## 道具的動機づけ

- 実用的な理由
  - 卒業要件を満たす
  - より良い仕事や高収入を得る

## 外因的動機づけ

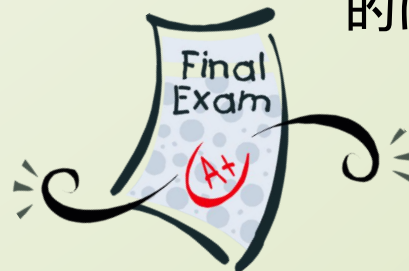
- ゴールや報酬を達成するための活動を行う
  - 試験に合格したい

## 総合的動機づけ

- ネイティブスピーカーを理解したい
  - ターゲット文化に興味がある
  - 外国語を学ぶことに成功しやすい

## 内因的動機づけ

- 活動が楽しいので自発的に行う



# 外国語学習のモチベーションとしての文化(1)

- スムーズにコミュニケーションできることの意味:
  - 色々な国籍や文化を持つ人々と外国語で話をしたり、理解したいと思う気持ち
  - 色々な国籍や文化を持つ人々の考え方を理解する。また、自分の意見や考え方等について説明する。  
(Ogura, 2014)
- "...文化は外国語を学ぶに当たって必要な側面"
  - 語彙や表現の意味は文化的な側面から影響されることもある。  
(Awad 2014)

# 外国語学習のモチベーションとしての文化 (2)

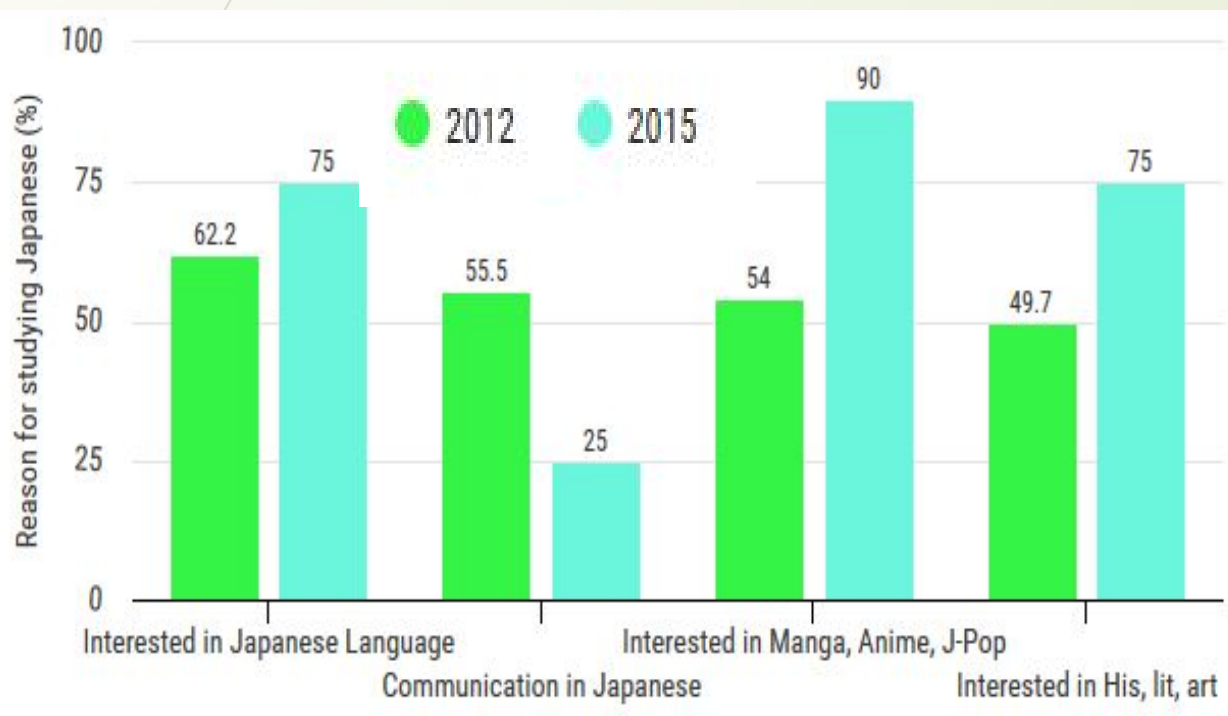
- Awadが行ったアンケートによると、アメリカ人の大学生が学習を続けるために、文化を学ぶことはいい動機づけになる
  - 外国語を勉強したい理由
  - 学生は学習を通しその国の文化が好きになる
- 田中が行ったアンケートによると、日本人の大学生は授業で外国のドラマと映画を見るとモチベーションが高まった
  - 学生は難しいが良いチャレンジだと思った
  - 学生のモチベーションを維持するために文化的な教材を使うことが大切

(Awad 2014)

(Tanaka, 2009)

# 外国語学習のモチベーションとしての文化 (3)

## アメリカにおける日本語教育の調査



- 2012年から日本の文化に関連した話題が増加している
  - 文化は学生が日本語を学びたい理由の一位と二位

# 外国語学習のモチベーションとしての文化 (4)

- ファンサブ: ファンによって作成されたアニメやドラマの非公式字幕
  - ジョーク、歴史、食べ物、文脈等の説明と解説ノート

(Lunning 2006)



ジョークの説明

“これは語呂合わせ  
豆知識 = bean Knowledge,  
ie, Trivial Knowledge  
豆の知識 = Knowledge of  
beans”

字幕

# 外国語学習のモチベーションとしての文化 (2)

- **マンガ:** 授業で学習の道具として使う
  - 文法・構文・語彙 をマンガを通して教える

(Lunning 2006)

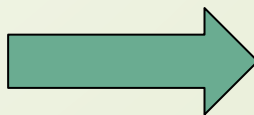
**語彙:**

*Ocha* = tea

*Desu* = it is

**構文:**

*Ocha desu* = it is tea



# 研究方法

回答者計: 日米大学生59名

- 日本人大学生30名
- アメリカ人大学生29名
- オンラインによるアンケート
  - (Google Form)
    - 英語によるアンケート
    - 日本語によるアンケート



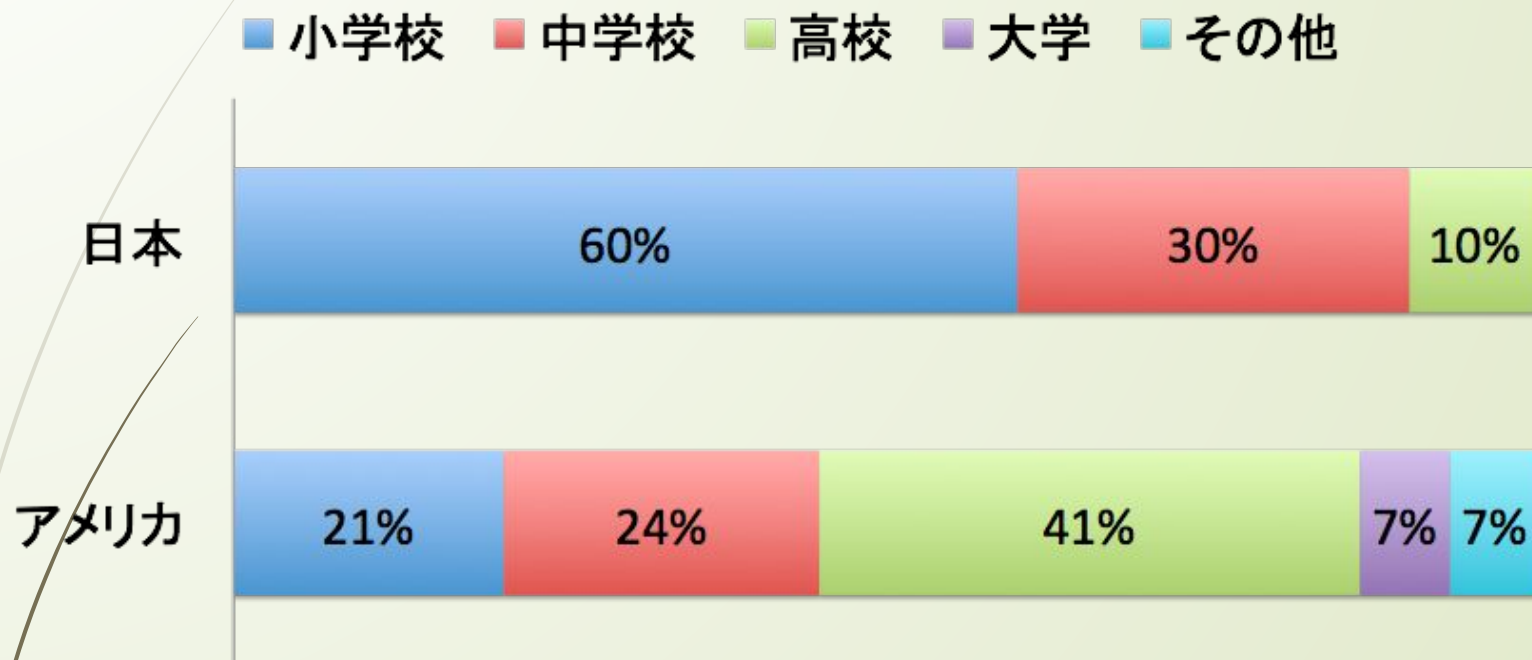
## 研究結果1:

### 研究質問1

日米の、外国語の授業ではどのように文化を取り入れているか

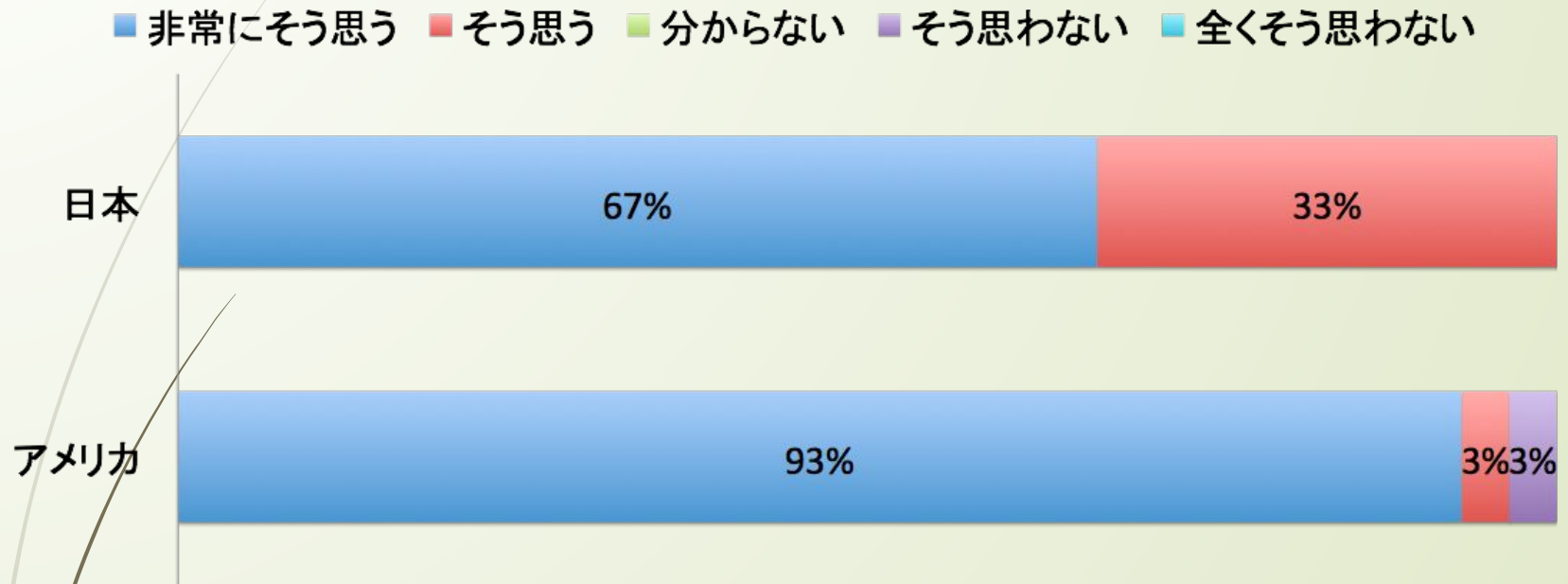


# いつ外国語の勉強を始めましたか。



60%の日本人は小学校で勉強を始め、41%のアメリカ人は高校で勉強を始めた。

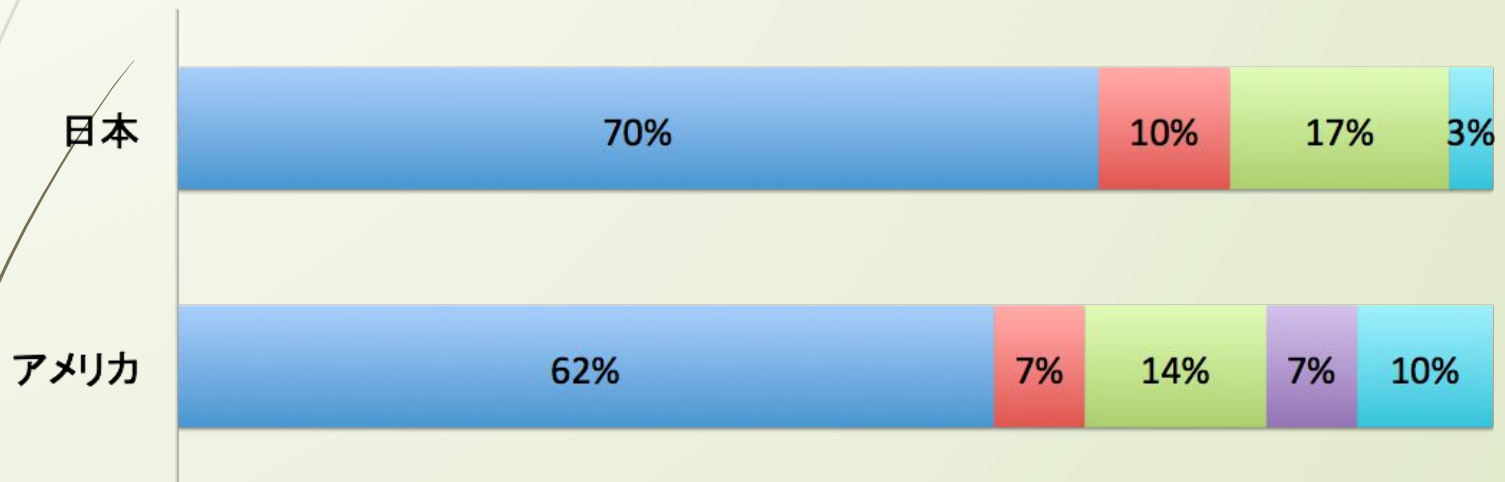
外国語を学ぶ時にその外国語の文化を学ぶことは重要だと思いますか。



日米の大学生は文化が外国語を学ぶ時に非常に重要だと思っているが、より多くのアメリカ人の学生が強くそう思っている。

学校で外国語をどのように教えるべきだと思いますか？学生は「\_\_\_\_\_ ことが出来るようになる」べきだと思う。

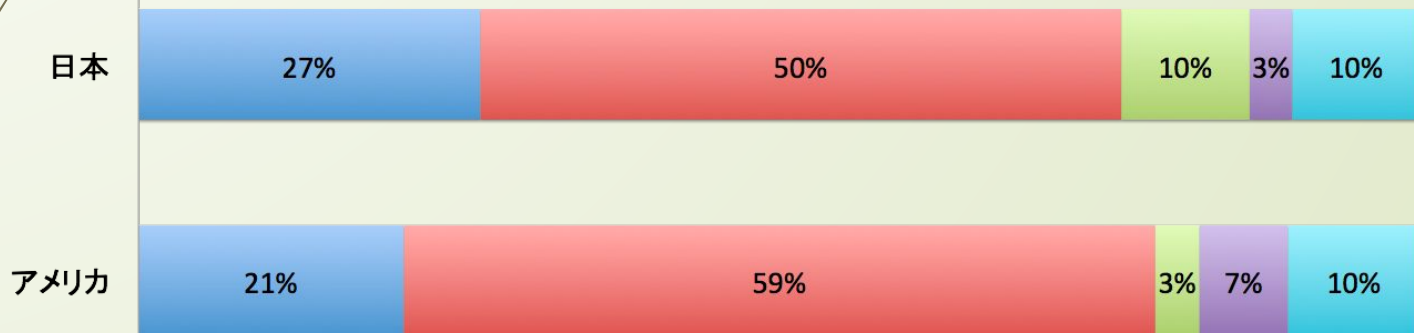
- 家族、自分の住んでいる場所、食べ物、買い物などのトピックについて話し合う
- 文法や語彙に関する知識を表現する
- 学んでいる言語の文化に関する知識を表現する
- 記事(メモ、エッセイ、文学など)を翻訳する
- メモ、エッセイ、短編を読み書きする



アメリカと日本の学生は「私の家族」や「買い物」などの日常的なトピックについて話し合うことができるべきだと思っている。

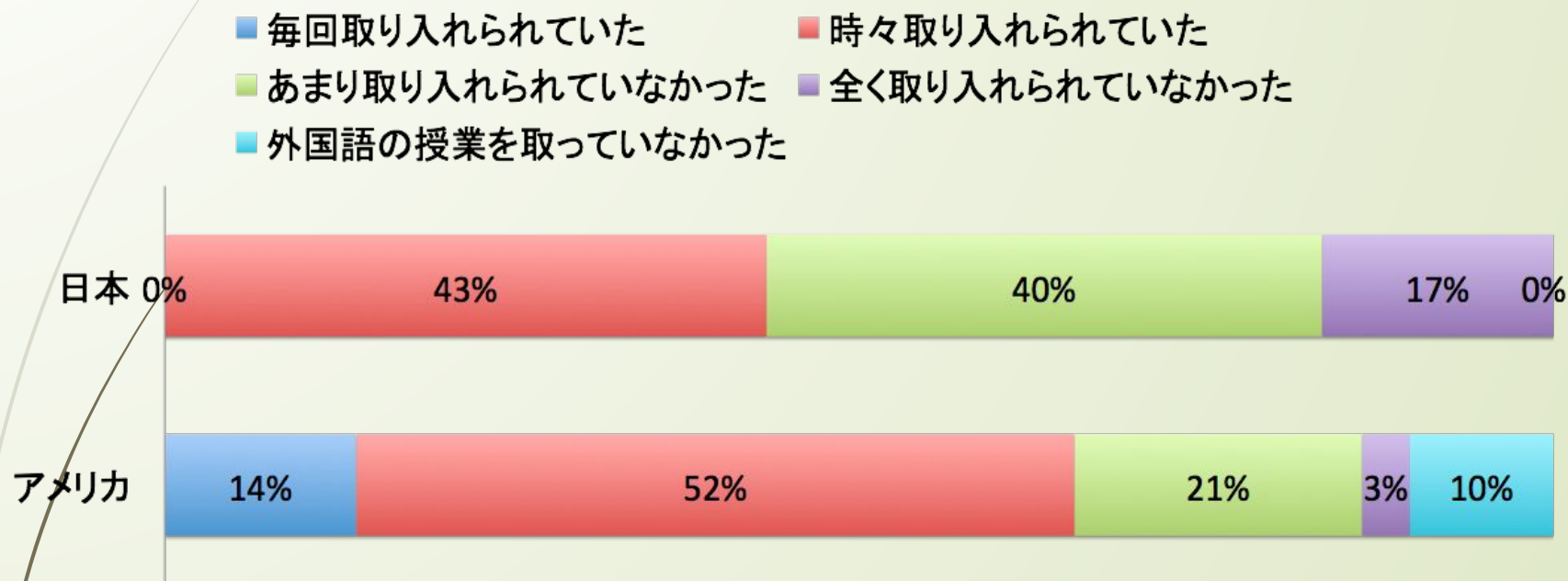
外国語の授業ではどのように文化を教えるべきだと思いますか。学生は「\_\_\_\_\_ ことが出来るようになる」べきだと思う。

- 自分の国の文化と今勉強している外国語の文化の違いを認識する
- 文化的な物(玄関など)、習慣(家に入る時靴を脱ぐ)、考え方(どうして靴を脱ぐのか)が分かり、話す
- 文学、映画、音楽などのトピックについて理解し話す
- 授業で学んだ話題と関係のある情報について知る
- 授業で学んだ話題以外の文化的な情報についても知る(お正月のお祝いの仕方、折り紙の折り方、歌を歌うなど)



大学生の半数以上は文化のプロダクト、プラクティスとパースペクティブについて話せることが必要だと思っている。

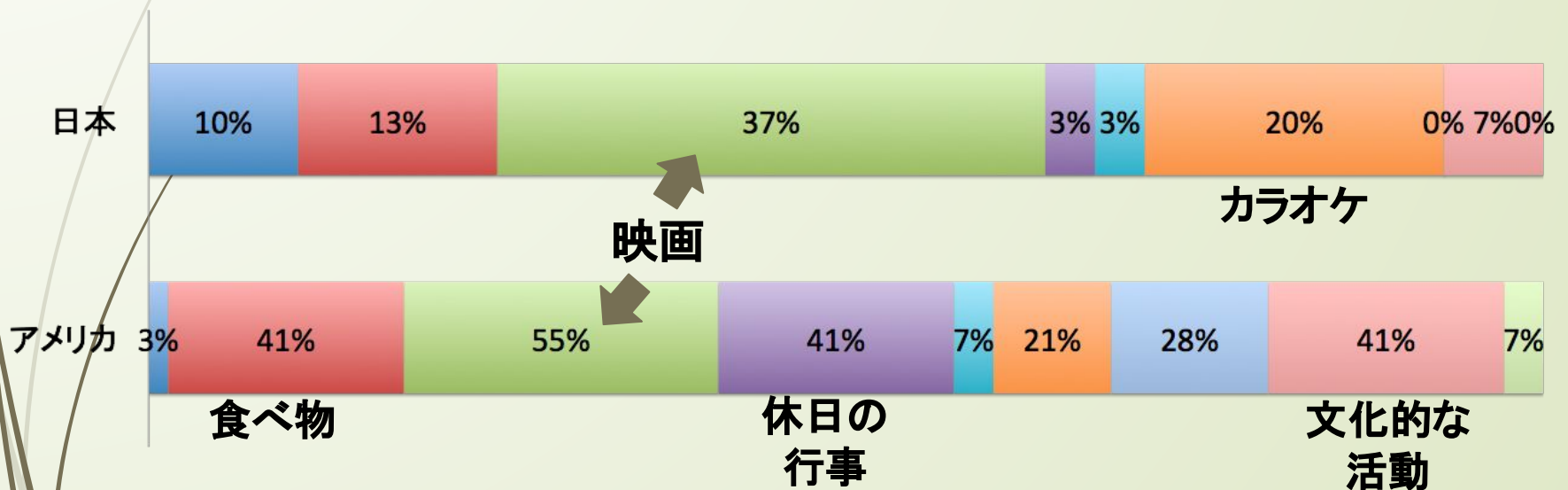
高校の外国語の授業で、学んでいる外国語の文化はどれくらい取り入れられていましたか。



アメリカの学生の約65%が高校で文化のレッスンがあったと回答したが、日本の学生の場合は約43%にとどまった。

# 高校の外国語の授業で一番思い出に残っている文化についての授業は何ですか。(三つ選んでください)

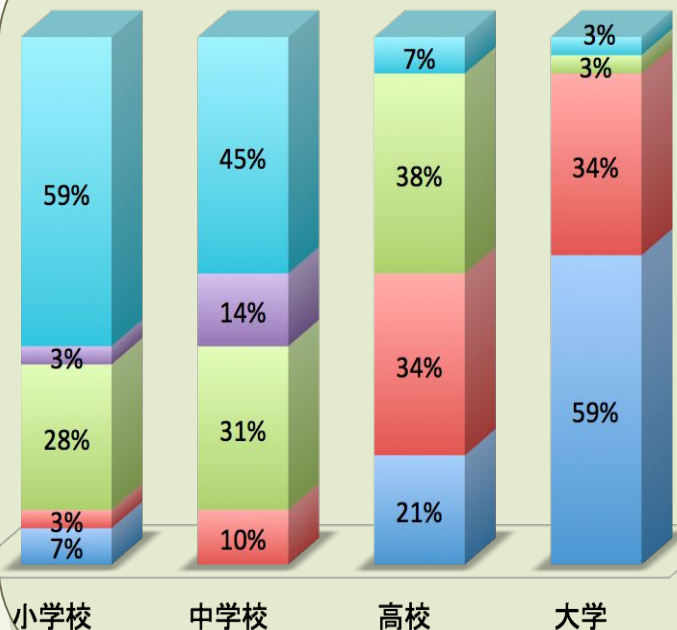
- ゲストスピーカーの話
- 食べ物を作った
- 映画を見た
- 休日の行事を体験した
- 電子メールを交換した(ペンパル)
- カラオケかまたは歌を歌った
- 礼儀作法やマナーを学んだ
- 文化的な活動を体験した(お祭り)
- 外国語の授業を取っていなかった



アメリカの学生は日本の学生よりも映画を見る以外に様々な文化の活動を経験している。

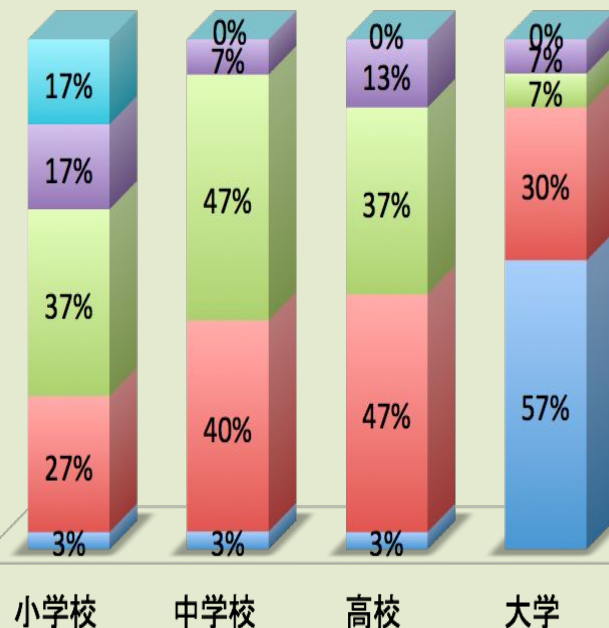
あなたが今まで取った外国語の授業にはどれくらい文化的な内容がありましたか。

アメリカ



- 外国語の授業を取っていなかった
- 全く文化的な内容がなかった
- あまり文化的な内容がなかった
- ある程度の文化的な内容があった
- 深い文化的な内容があった

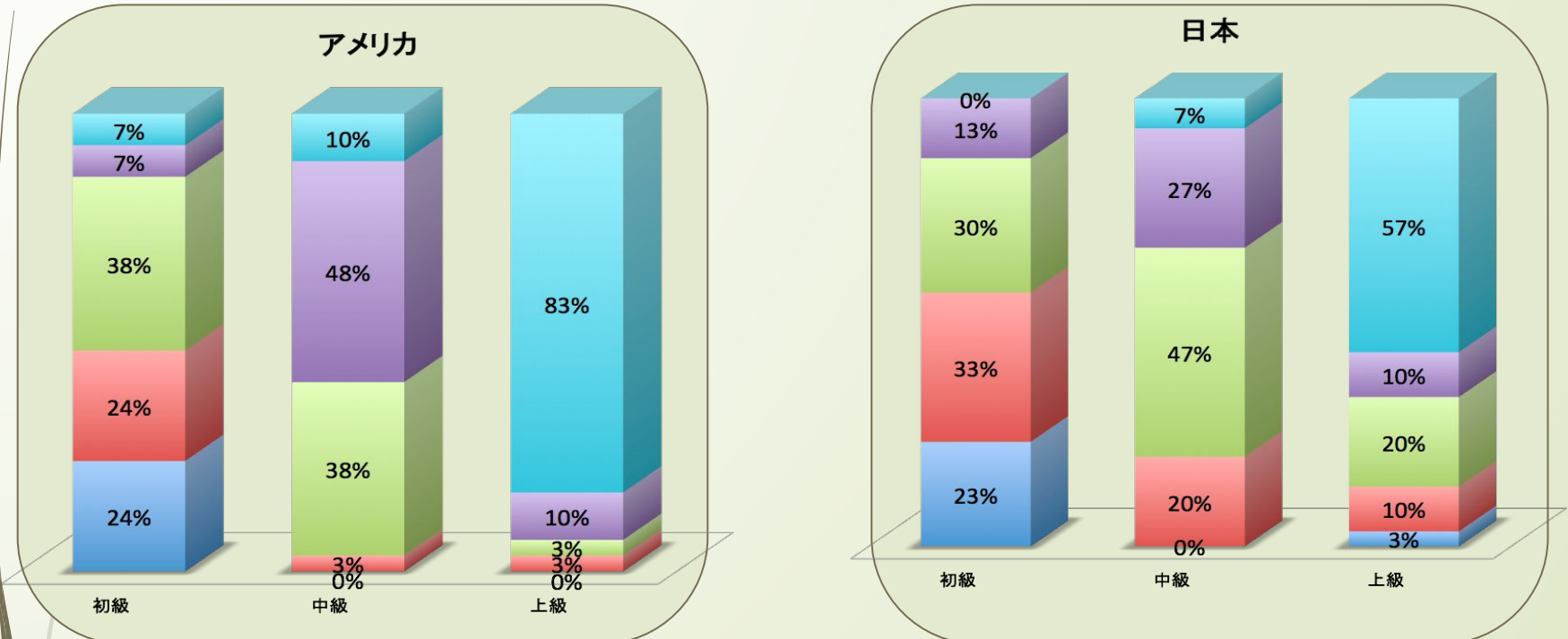
日本



日本もアメリカも小学から大学に行くに従い文化的な内容が増えているがどちの国も大学での授業に文化が深く入っている。全体的に見ると日本の方が小学から大学まで、文化の導入の量が多い。



あなたはどのぐらいの割合で文化的な内容をそれぞれのレベルの外国語の授業で教えた方がいいと思いますか。



- 80% - 100% (勉強している言語で文化を教える)
- 60% - 80% が文化的な内容
- 40% - 60% が文化的な内容
- 10% - 30% が文化的な内容
- 0% - 10% (ほとんど文法と語彙のみ)

両国の学生は初級から上級に進むに従い言語で文化を教えるべきだという考えが強いです。国別に比べるとアメリカの8割の学生が文化をターゲットの言語で教えるべきだと思っている



# 研究質問1の結果:まとめ

- 過半数の日本の学生は小学校から外国語を学んでいますがその授業にはあまり文化に関しては導入されていない。
- アメリカでは小学校から外国語を始めた学生は20%と少なく、高校から学んだ学生が40%と一番多い。その高校での授業には文化がある程度導入されている
- 日本では映画を使って文化を導入する傾向があるが、アメリカでは料理、行事やお祭り等の文化的な活動等を授業にとりいれるなど様々な体験を通して文化を学ぶ。
- 両国の学生は初級から上級に進むに従い言語で文化を教えるべきだという考えが強い。
- アメリカの8割の学生が文化をターゲットの言語で教えるべきだと思っている

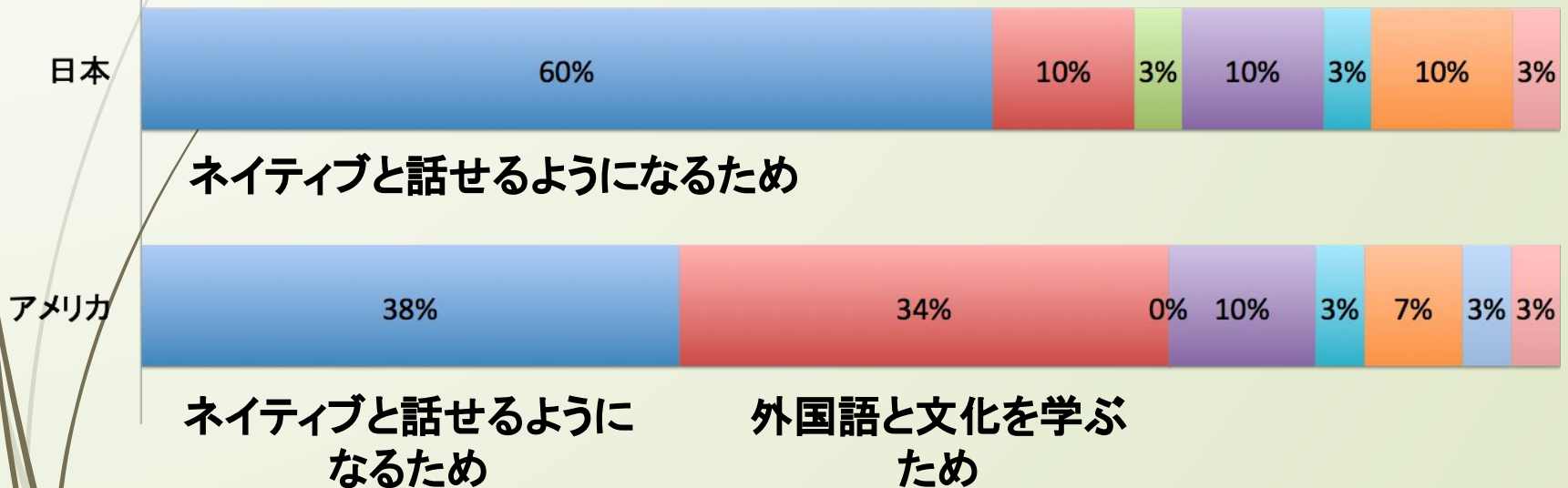
## 研究結果2:

### 研究質問2

日米の学生にとって、文化は外国語を学ぶモチベーションとしてどのような役割を果たしているか。

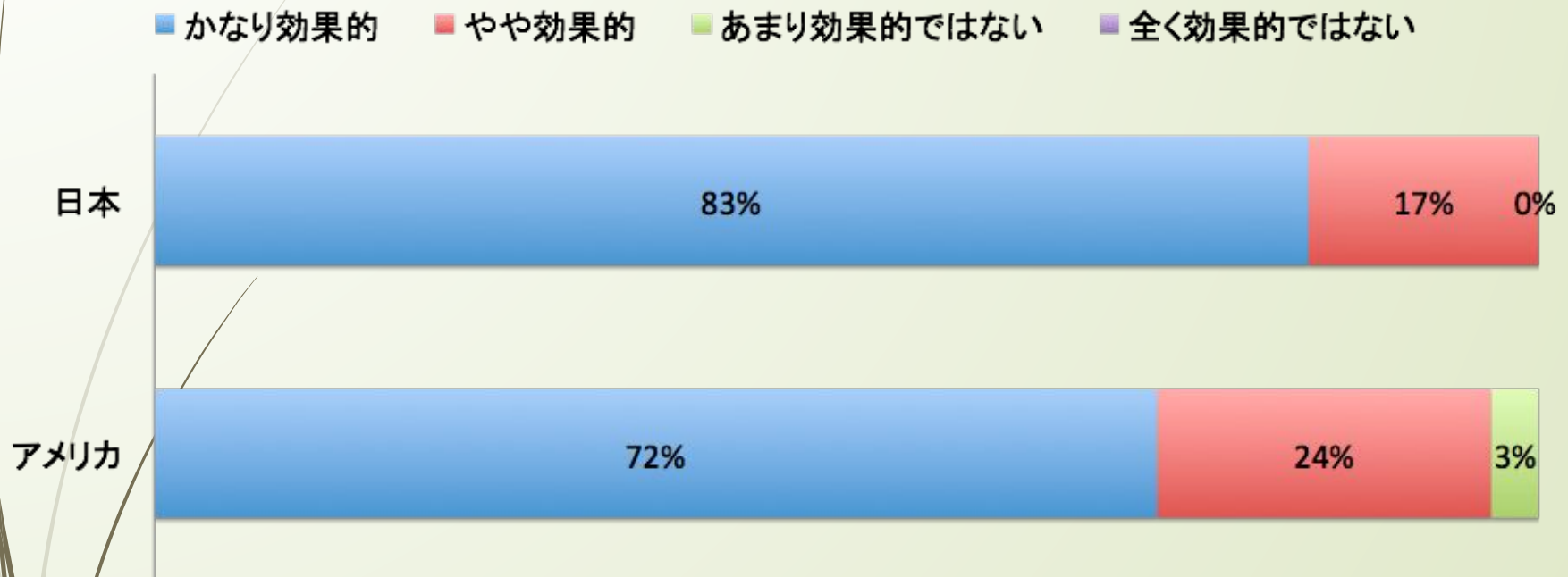
外国語を学ぶことにおいて、あなたは自分がどんなモチベーションを持っていると思いますか。

- ネイティブと話せるようになるため
- 外国語と文化を学ぶため
- 試験に合格するため
- 違う考え方を理解するため
- 友達を作るため
- 将来の仕事のため
- 単位を貰うため
- テレビや映画を字幕なしで見るため



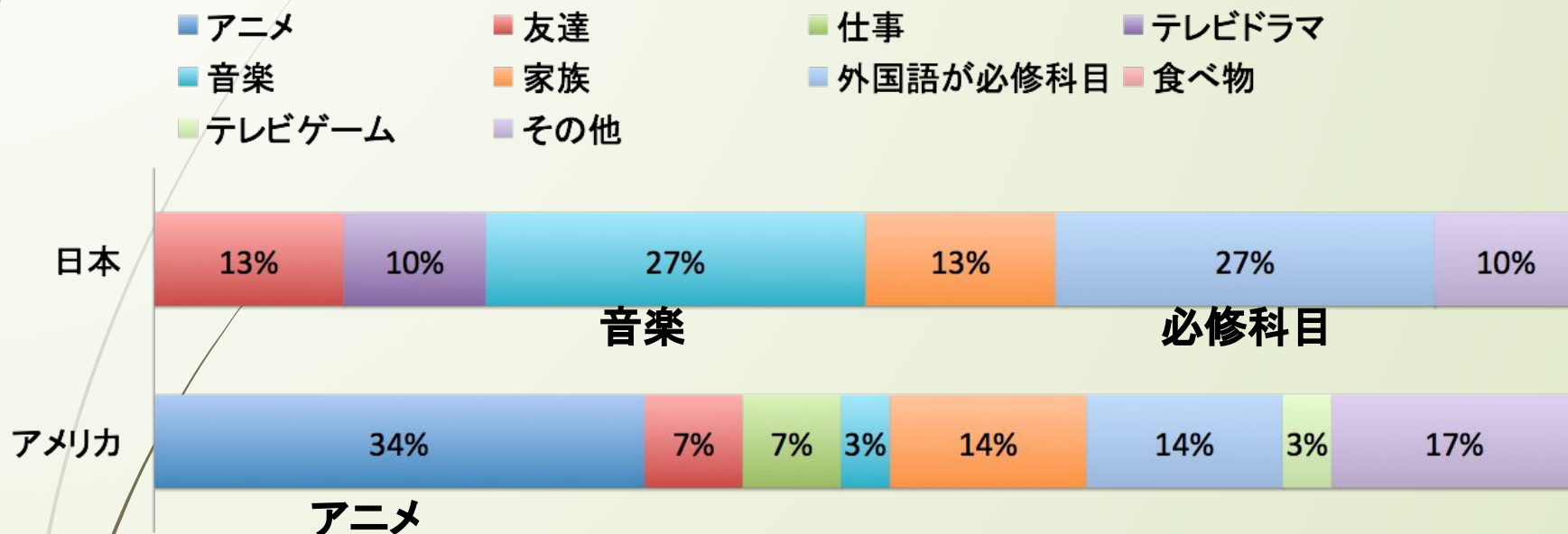
6割の日本の大学生は「ネイティブと話せるようになるため」に外国語を学ぶ。  
アメリカの学生はそれ以外に「外国語と文化を学ぶため」に学んでいる

学びたい言語の文化を学ぶことは、外国語の習得においてあなたの外国語を学ぶ意欲にどの程度の影響を与えますか。



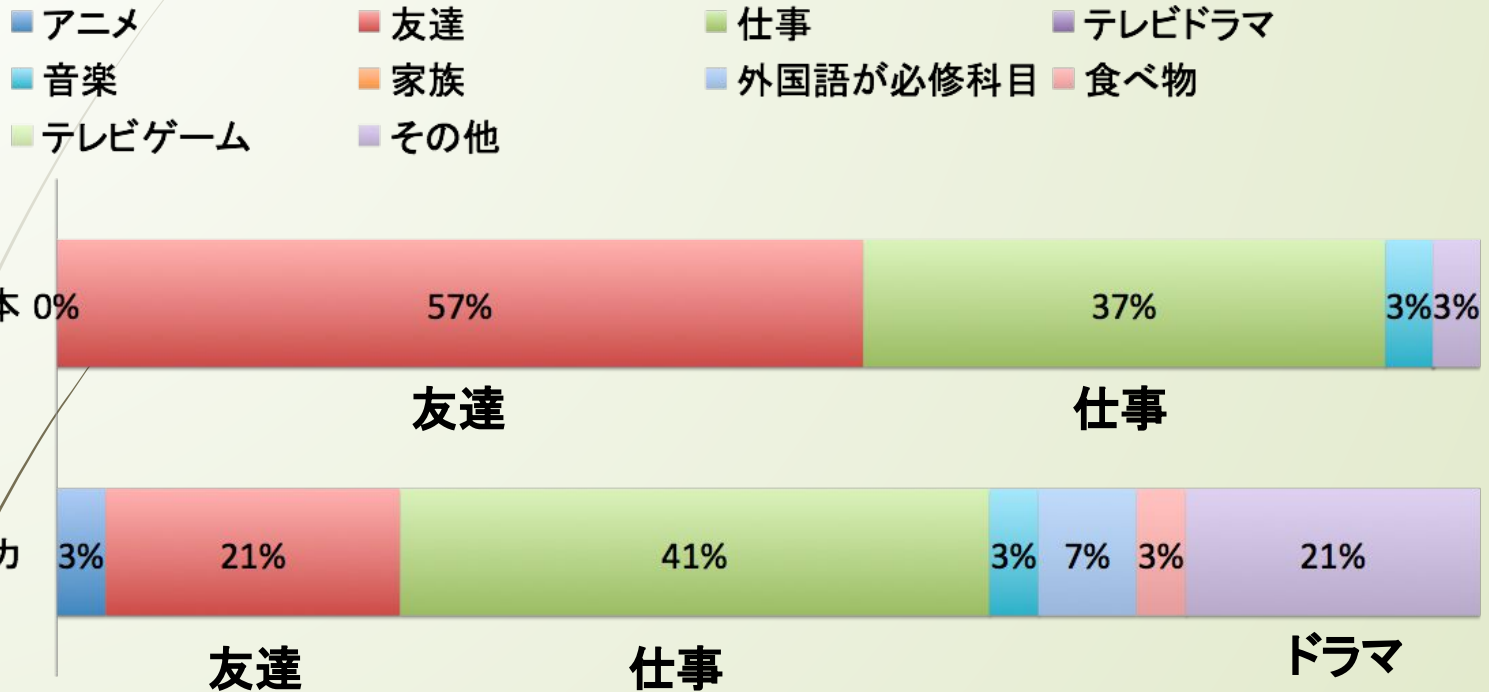
過半数の大学生は、文化を学ぶことが学習習慣にプラスの影響を与えている。

外国語を初めて勉強した時のあなたのモチベーションは何でしたか。



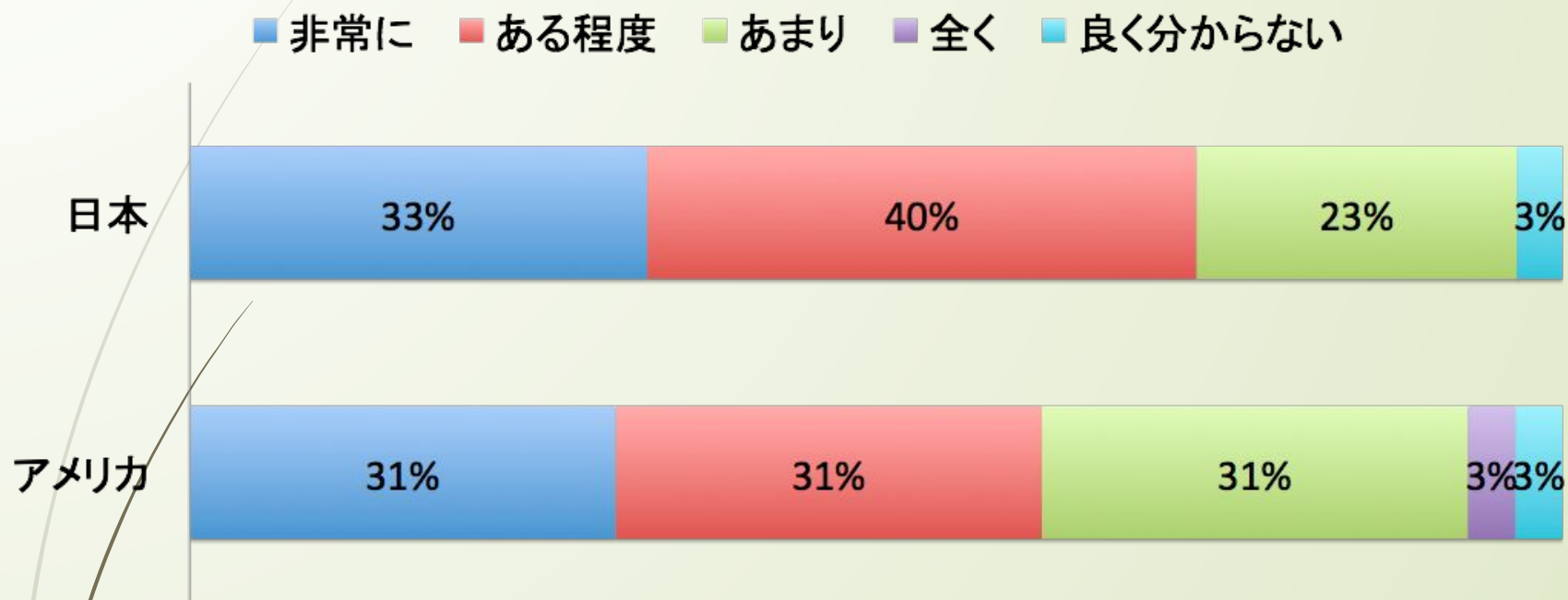
アメリカ人の大学生のモチベーションは「アニメ」だったが、日本人の大学生は「音楽」と「必修科目」を選んだ。

# 現在の外国語を学ぶモチベーションは何ですか。



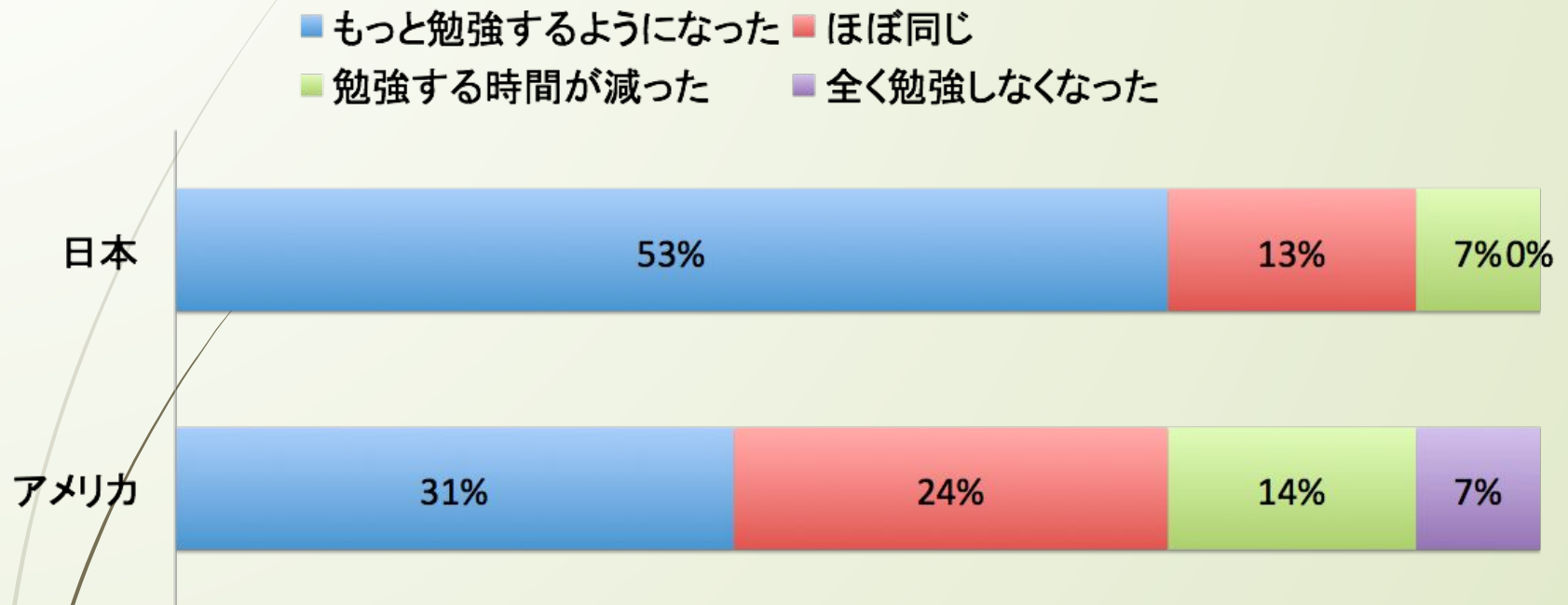
アメリカの大学生の現在のモチベーションは「仕事」で、日本の大学生のモチベーションは「外国人の友達を作りたい」と「仕事」だった。

あなたが外国語を学びたいと思った最初の目的は、変わったと思いますか。



アメリカ人の大学生も日本人の学生もモチベーションは変わったと思っている。

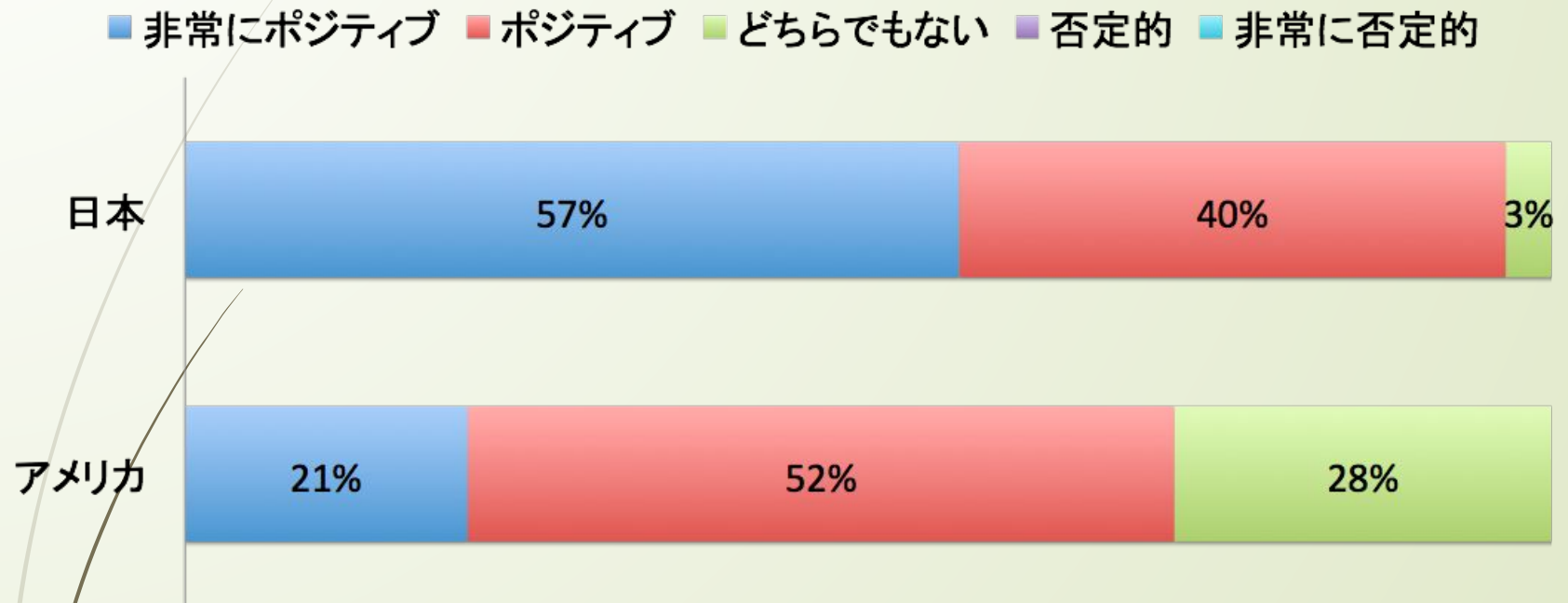
「非常に」あるいは「ある程度」を選んだ方は、勉強の習慣はどのように変わりましたか。



約5割の日本の学生がもっと勉強するようになったと答えたのに対し、アメリカの学生はもっと勉強するようになったは31%にとどまっている。



今までの外国語の勉強の経験を、どのように評価しますか。

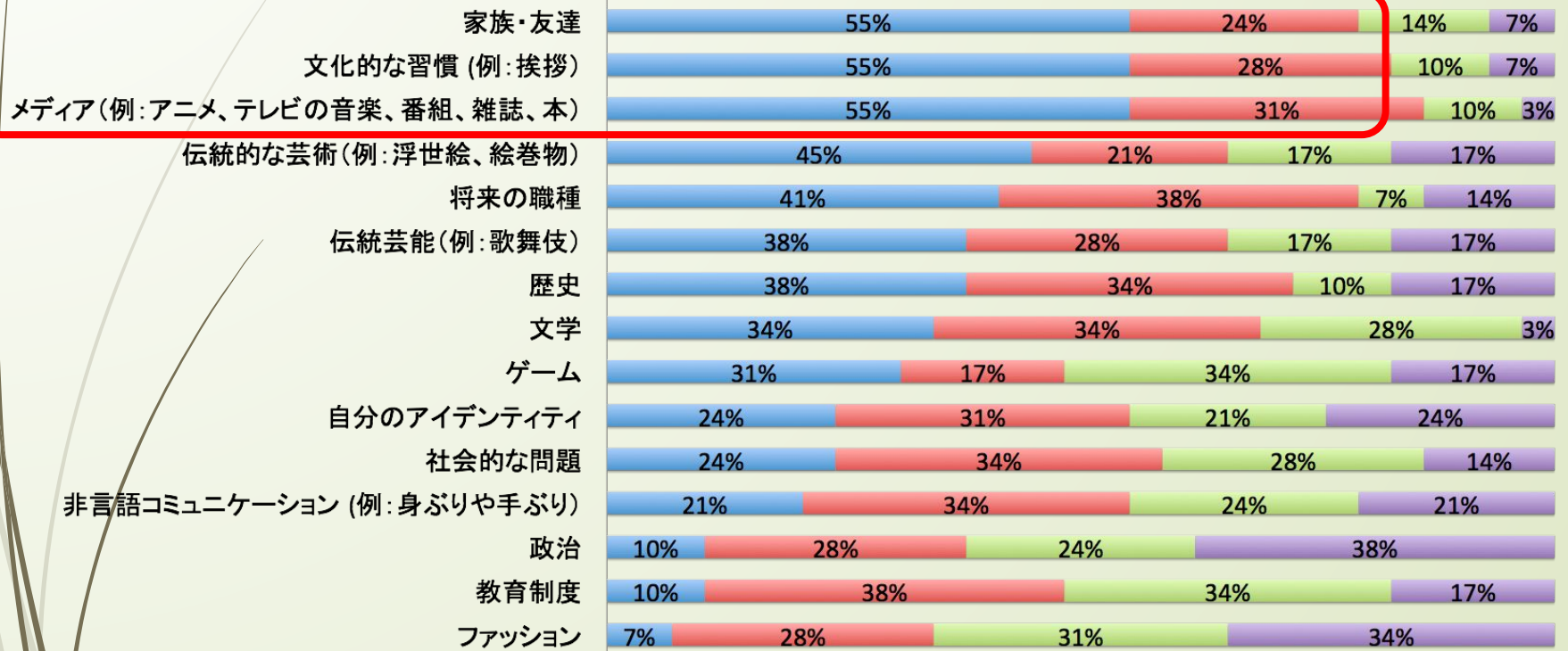


どちらの国の学生も肯定的な経験をしているが、日本とアメリカを比べると97%と日本の学生の方がいい経験をしている。

# 外国語のクラスで学んだトピックの中で、モチベーションを高めるために役立ったものは何か。

## アメリカ

■ とても役に立った   ■ ある程度役に立った   ■ あまり役に立たなかった   ■ 全く役に立たなかった

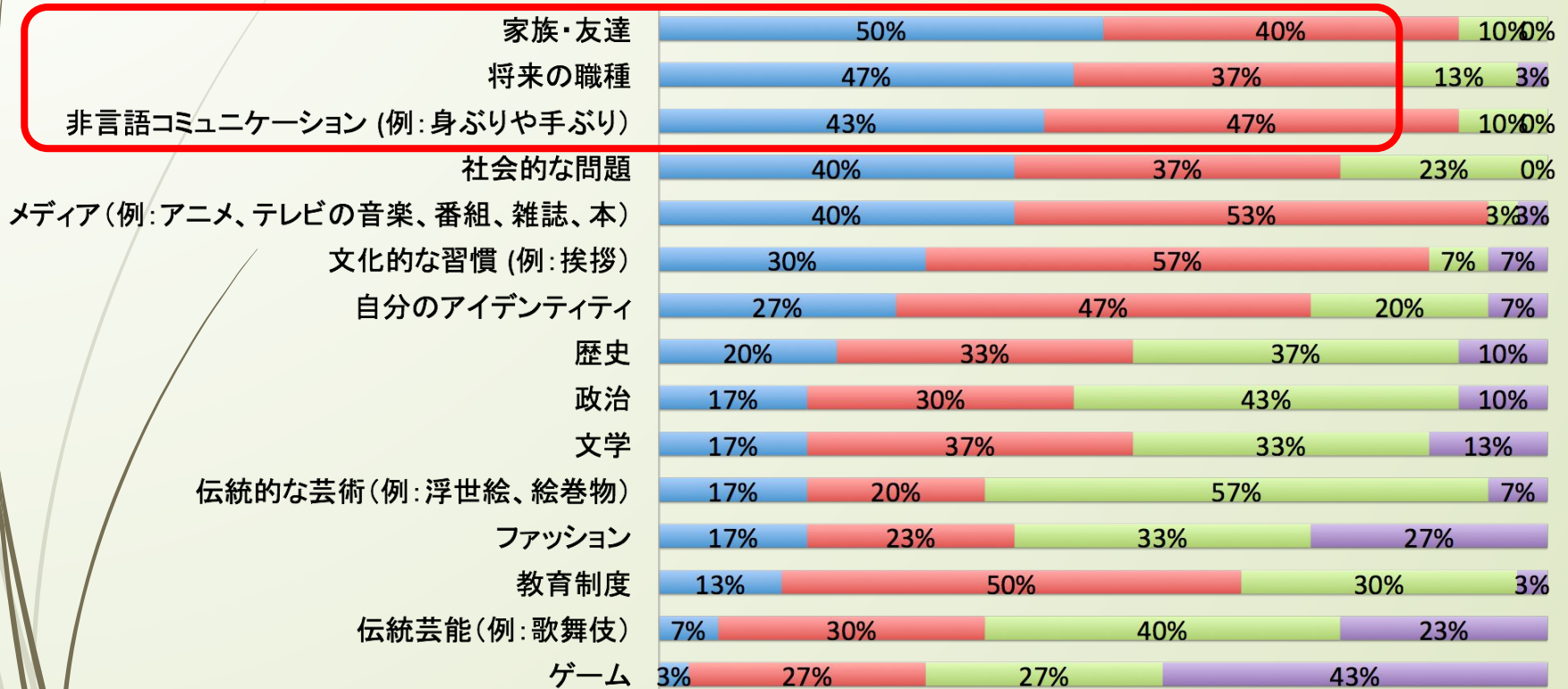


アメリカの大学生は、「メディア」と「文化習慣」「家族・友達」に関するトピックが非常に役立っていることと思っている

下のリストから、あなたが外国語のクラスで学んだトピックの中で、モチベーションを高めるために役立ったものは何ですか。

日本

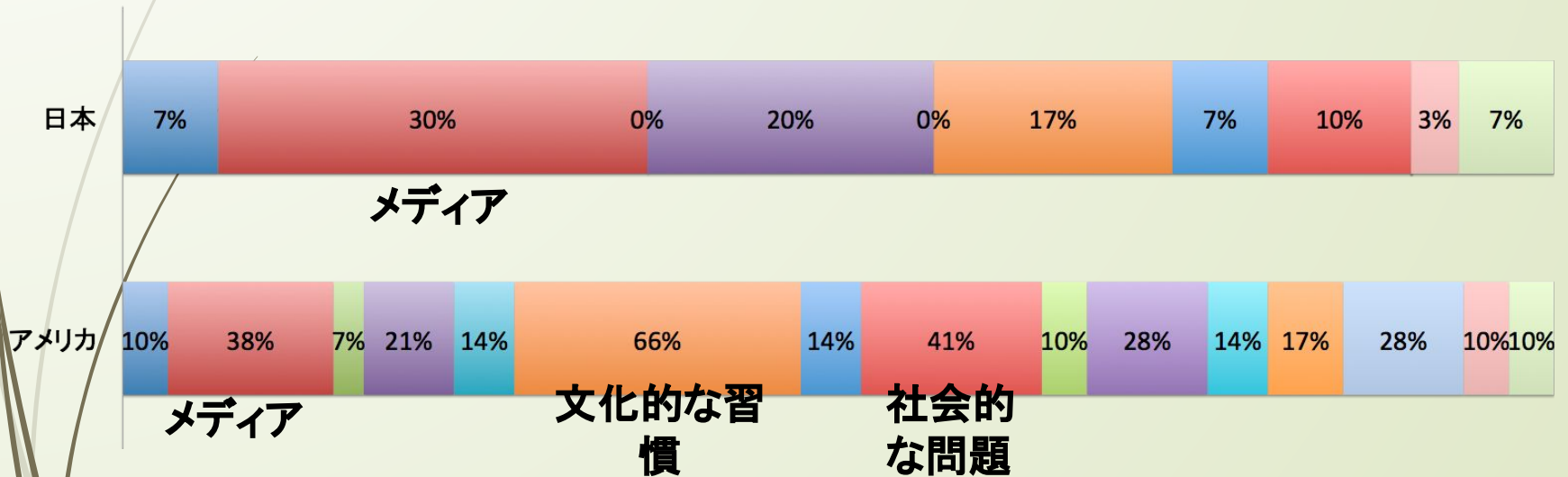
■ とても役に立った ■ ある程度役に立った ■ あまり役に立たなかった ■ 全く役に立たなかった



日本の学生は、「家族・友人」、「将来の職種」「非言語コミュニケーション」が非常に役立っていることと思っている。

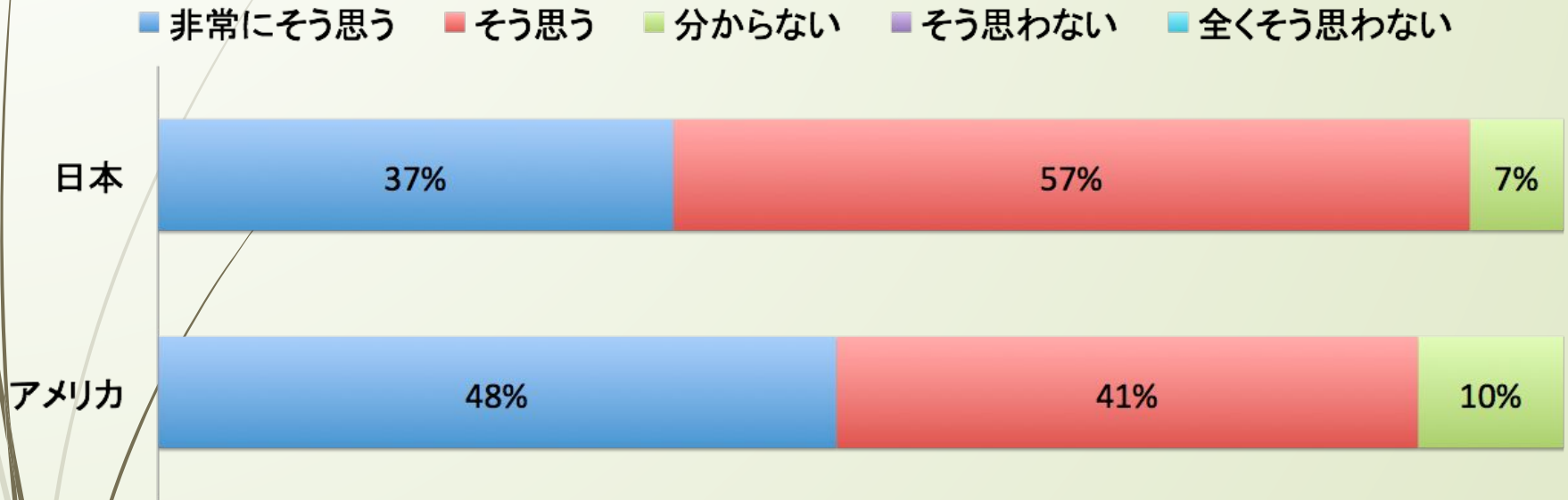
# 外国語をより良く学ぶために、外国語の授業にどんな文化を取り入れて欲しいと思いますか。

- 教育制度
- メディア(例:アニメ、テレビの音楽、番組、雑誌、本)
- ファッション
- 将来の職種
- 伝統芸能(例:歌舞伎)
- 文化的な習慣(例:挨拶)
- 家族・友達
- 社会的な問題
- 自分のアイデンティティ
- 歴史
- 伝統的な芸術(例:浮世絵、絵巻物)
- ゲーム
- 文学
- 政治
- 非言語コミュニケーション(例:身ぶりや手ぶり)



日本の場合はメディア、次に将来の職種があげられた。アメリカの場合は文化的な習慣が一番高く、その次に社会的な問題、メディアと続いている。

外国語のクラスで多くの文化を取り入れたら、より多くの学生が外国語を勉強するようになると思いますか。



両国の学生の約9割の大学生は文化を取り入れるべきだと思っている。

# 研究質問2の結果：まとめ

- 日本の学生もアメリカの学生も外国語の授業では文化を学ぶことにより学ぶ効果が上がる
- アメリカ人のモチベーションはアニメからキャリアに変わった。
- 日本人のモチベーションは、「必修科目なので勉強した」から、外国語の学習を通して「音楽」や「友達」にもっと関心を持つようになった。
- 日本の学生はメディアとキャリア、アメリカの学生は文化の慣習に関するトピックが学習の動機づけになる
- 日本の場合はメディア、次に将来の職種があげられた。アメリカの場合は文化的な習慣が一番高く、その次に社会的な問題、メディアと続いている。

# 結論

- 両国の大学生は外国語を学ぶ上で、文化がとても大切だとしている。
  - 日米の学生共に学習が進むにつれ学習目的が変わる
    - 日本の学生は、必須科目だから勉強したいが、次第に友達を作りたい、アメリカの学生はキャリアに繋がりたいと学習の目的が具体的になる。
  - 両国の学生は言語的な知識よりメディア等を通して友達との会話や仕事で使える言語能力がつくことをのぞんでいる。そのためには生教材を通して体験型文化の学習が望まれる。



# 研究における限界点

- 参加者の人数が少なく、過半数の回答者が外国語専攻の学生や留学生だったので結果を一般化することは難しい。

## 将来の研究課題

- 外国語を専攻しておらず、留学をしたことのない学生の調査。
- 日本の2020年の英語教育リフォームの後に、人々の意見がどのように変わったかを調査。



# 参考文献

- ACTFL. (2012). ACTFL Proficiency Guidelines 2012. Retrieved from <https://www.actfl.org/publications/guidelines-and-manuals/actfl-proficiency-guidelines-2012>
- Awad, G. (2014). Motivation, persistence, and crosscultural awareness: A study of college students Learning foreign languages. *Academy of Educational Leadership Journal*, 18(4),97-116.
- Clark, G. (2009). 日本の英語教育は何がまちがっているのか . Retrieved from <http://www.gregoryclark.net/jt/page55/page55.html>
- Cutshall, S. (2012). More than a decade of standards: integrating “culture” in your language instruction. *The Language Educator*. 32-37
- ICEF Monitor. (2015). Japanese education reforms to further prepare students for globalised world. from <http://monitor.icef.com/2014/02/japanese-education-reforms-to-further-prepare-students-for-globalised-world/>
- Japan Foundation. (2012). Survey on Japanese-Language Education Abroad 2012. Retrieved from <https://www.jpf.go.jp/e/project/japanese/survey/result/>
- Japan Foundation. (2015). *The Japan Foundation survey on Japanese language education institutions 2015: U.S. data*. Los Angeles: Japan Foundation.
- Larsen-Freeman, D., & Anderson, M. (2016). *Techniques and principles in language teaching*. Oxford: Oxford University Press.
- Liu, Y. (2013). Applying comprehensible input and culture input methodology to inspire college students' learning motivation. *Theory and Practice in Language Studies*, 3(11), 2072-2077.
- Løfsgaard, K. A. (2015). The history of english education in japan - motivations, attitudes and methods. Retrieved from <https://www.duo.uio.no/handle/10852/45769>
- Lunning, F. (2006). *Mechademia 1: Emerging worlds of anime and manga*. Minneapolis, MN: University of Minnesota Press.
- Mahadi T. S., & Jafari S. M. (2012). Motivation, its types, and its impacts in language learning: International. *Journal of Business and Social Science*. 3(24), 232.

# 参考文献

- Masaaki, K. (2013). English to get 2020 push but teachers not on same page. Retrieved from <http://www.japantimes.co.jp/news/2013/12/31/national/english-to-get-2020-push-but-teachers-not-on-same-page/#.WNLg3KLjLIX>
- National Standards in Foreign Language Education Project. (2012). *Standards for foreign language learning in the 21st century: including Arabic, Chinese, Classical Languages, French, German, Italian, Japanese, Korean, Portuguese, Korean, Portuguese, Russian, Scandinavian languages, and Spanish*. Yonkers, NY: National Standards in Foreign Language Education Project.
- Ogura, M. (2014). 高等学校における新学習指導要領に対応した英語指導法. *日本福祉大学全学教育センター紀要*, 2.
- Perugini, D. (2015). Integrated Performance Assessment for Elementary Learners. Retrieved from <https://www.slideshare.net/peruginid/westport-pd-ipas-in-the-fles-classroom>
- Swanson, P. (2015). Building Your Core: Effective Practices for Language Learners and Educators. *The American Council on the Teaching of Foreign Language*, 19.
- Tanaka, H. (2009). 3つのレベルの内発的動機づけを高める: 動機づけを高める方略の効果検証. *JALT Journal*, 31(2), 227-250.

# 謝辞

- 齋藤-アボット佳子教授
- 関根繁子教授